

パイラックの本物を見直して下さい

- ◎ マークから包装までそっくりのニセモノパイラックが出廻って、お得意様にご迷惑をかけたことは、新聞（朝日、中部読売、中日、日刊工業、日本工業、電気、電気機械工業、電気商工）にも大きくのって、すでにご存じのことと思います。
- ◎ まず、ニセモノの製作方法を紹介します。ネジ下孔開け、マーク打、ふち切、両側ビード曲げ、φ14孔開け、ネジ切、U曲げの順で作ります。このような製作方法では、**1. 曲げた所のφ14孔は楕円形になって、クリップ保持が不確実です。2. U曲げの口が開いて、ネジが斜めになり、吊下荷重が減少します。**初期のパイラックは、これに近い方法で作りました。上記1.2.の欠点をなくすには、相当高度の技術が必要なことは、その道の専門家なら、すぐ気がつかれると思います。
- ◎ **技術の未熟に加えて、ニセモノは安かろう悪かろうで、板厚は1割以上薄くネジは正しい凹み先でなく、焼きも入っておりません。**
- ◎ ニセモノは以上のように性能的に劣る上、未だ全部は回収出来ておりません。ご面倒でもニセモノをよく見分けられて、絶対にご使用にならぬようお願いすると共に、ネグロスの本物のパイラックの優秀性を見直していただければ幸甚と存じます。見わけ方のくわしい資料ご希望の方は広報室までご請求下さい。

(R.S)

